

令和6年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

指導	岩手県におけるブルーベリー品種の特性
【要約】国内外で育成されたブルーベリー6品種の生態や果実品質、樹体生育や収量等の品種特性を提示する。	

1 背景とねらい

本県におけるブルーベリーの特性評価について、これまで平成18年及び平成24年の試験研究成果（参考文献ア、イ）でとりまとめたが、新品種や一部既存品種では収量性など特性が明らかになっていない。

そこで耐寒性や大粒性などが期待される国内外育成品種について、本県における特性を明らかにし、品種選択に資する。

2 内容

- (1) 本試験で供試した6品種の生態や果実品質、樹体生育、収量等の特性を明らかにし（表1、表2、図1）、主な特性一覧を以下のとおり提示する。

表 供試品種の特性一覧

品種名	収穫時期	収量性	大粒	良食味	収穫期間	備考
コリンズ	7月 第2半旬			○	短	隔年結果性が見られる。凍害の発生が多い。
あまつぶ星	7月 第4半旬		○	○	短	糖酸比高く、甘味が強い。凍害の発生がやや見られる。
ブルークロップ	7月 第4半旬	○				果肉が硬い。樹体生育は小さいが樹容積あたりの収量が多く、収量性が優れる。
バークレイ	7月 第4半旬	○			短	果肉軟らかくなりやすい。収穫が遅れると落果が見られる。
ジャージー	7月 第5半旬					花芽の着生多いが、小粒のため収穫に労力がかかる。
チャンドラー	7月 第6半旬	○	○			超大粒で多収。樹勢強く、隔年結果性がやや見られる。

注1 収穫時期は、累積収量が全体の50%を超えた時期。

注2 収量性は、樹容積あたり収量が1,000g以上とした。なお、成木期は7年生以降とした。

注3 大粒は、1果重2g以上、選果割合2Lが25%以上とした。

注4 良食味は、糖酸比14～23を基準とした。

注5 収穫期間は、25日間以内のものを短い、30日以上のを長いとした。

3 活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等 県内全域 農業普及員、JA営農指導員
 (2) 期待する活用効果 岩手県におけるブルーベリー栽培での品種選択の参考として活用される

4 留意事項

- (1) 本試験に供試した品種の植栽距離は5×1.25～2.5m、供試樹数は1品種1～2樹である。
 (2) 各品種の特性を踏まえたうえで、生産者の経営規模や販売方法に応じた品種を選択する。
 (3) これまでブルーベリーは33品種を供試し、22品種について特性評価した（参考資料）。本成果は新たに5品種の特性と収量性が未評価だった「チャンドラー」を評価したものである。

5 その他

- (1) 関連する試験研究課題
 (H31-11) 特産果樹の優良品種の選抜および省力的栽培技術の導入
 (1000) おうとう、もも等の優良品種の選抜 [H31～R10/令達・県単]
 (2) 参考資料及び文献等
 ア (H18-指-25) ブルーベリーの特性評価と優良品種の選定
 イ (H24-指-06) ブルーベリーの特性評価と優良品種の選定（追補）

6 試験成績の概要（具体的なデータ）

表 1 供試品種の生態及び果実品質

	定植年	発芽 期 (月/日)	開花 始期 (月/日)	満開 期 (月/日)	落花 期 (月/日)	果実の大きさ			糖度 (Brix)	酸度 (g/100ml)	糖酸比
						1果重 (g)	選果割合(%) 2L以上	L以上			
コリンズ	H20	3/28	4/30	5/8	5/19	1.7	11.6	60.4	13.6	0.80	17.0
あまつぶ星	H20	3/30	5/4	5/13	5/24	2.6	31.6	88.5	11.8	0.68	17.3
ブルークロップ	H19	4/2	5/6	5/14	5/24	1.9	12.8	86.6	11.6	0.91	12.8
パークレイ	H20	4/1	5/5	5/14	5/26	2.2	20.4	86.6	12.4	1.05	11.8
ジャージー	H20	4/6	5/7	5/17	5/27	1.2	0.6	29.7	13.1	1.00	13.1
チャンドラー	H19	4/3	5/6	5/15	5/27	3.9	77.2	98.1	10.9	1.04	10.5

注1 発芽期～落花期のデータは、H25～R5の平均値。

注2 果実品質は、H25～R5の収穫盛期における調査データの平均値（H29、R1を除く）。

注3 選果規格は、2L（横径18～20mm）、L（15～18mm）。

注4 酸度は、クエン酸換算。

表 2 供試品種の樹体生育、収穫期及び収量

	樹高 (cm)	樹幅 (cm)	樹容積 (m³)	収穫期(月/日)			収穫 期間 (日)	収量 (g/樹)	樹容積 あたり収量 (g/m³)	耐寒性
				始	盛	終				
コリンズ	139	156	2.66	7/1	7/9	7/21	21	1,454	547	弱
あまつぶ星	137	130	1.82	7/7	7/17	7/31	25	1,659	912	中
ブルークロップ	161	103	1.34	7/6	7/18	8/2	28	1,827	1,362	強
パークレイ	126	113	1.26	7/10	7/20	8/3	25	1,666	1,318	中
ジャージー	163	160	3.28	7/14	7/25	8/9	27	1,144	349	強
チャンドラー	165	161	3.36	7/16	7/29	8/12	28	3,623	1,079	強

注1 樹高、樹幅（樹間方向と列間方向の平均）及び樹容積は、7～17年生樹のデータの平均値。樹容積は、(樹幅/2)²×π×樹高で計算。

注2 収穫期は、H25～R5の平均値（H29、R1を除く）。

注3 収量は7～17年生樹のデータの平均値（ブルークロップ、チャンドラーは12、14年生樹のデータを除く。コリンズ、あまつぶ星、パークレイ、ジャージーは11、13年生樹のデータを除く）。

注4 耐寒性は、R2～R6の凍害（低温による枝の枯死）発生程度に応じ、弱、中、強で判定。

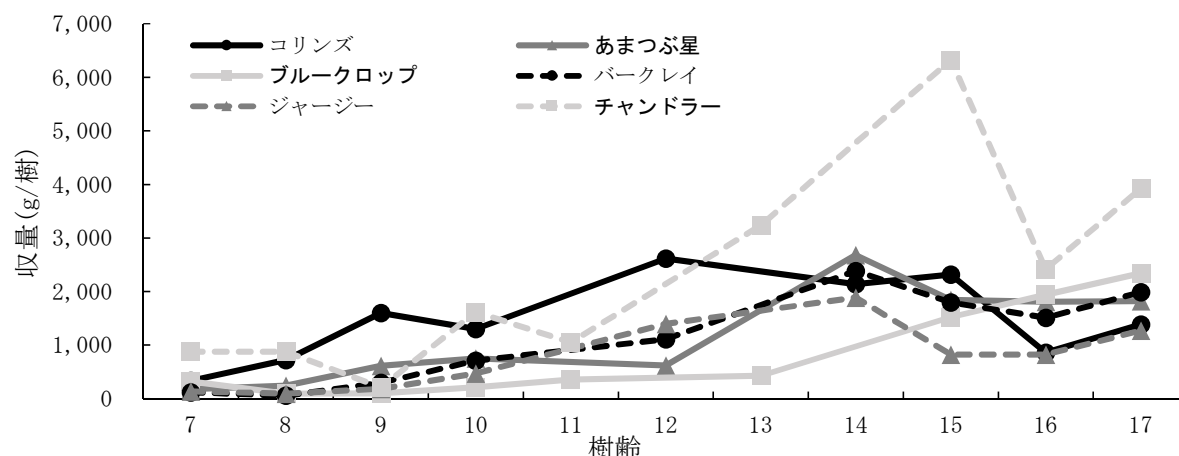


図 1 供試品種の収量の推移

注 1 コリンズ、あまつぶ星、パークレイ、ジャージーは 11、13 年生樹のデータを除く。ブルークロップ、チャンドラーは 12、14 年生樹のデータを除く。

【担当】園芸技術研究部 果樹研究室